

尼崎市制一〇〇周年記念
新「尼崎市史」

たどる調べる尼崎の歴史 上巻

序

尼崎市が初の市制を施行したのは、いまからちょうど一世紀前の大正五年（一九一六）四月一日。今年が市制一〇〇周年になります。

この百年の歴史のなかで、尼崎市は幾度か、歴史をふりかえることを試みてきました。市制実施五周年記念事業として大正九年に調査を開始し、昭和五年（一九三〇）から一〇年にかけて寺院篇、神社・宗教篇、尼崎城・尼崎魚市篇など全三冊を刊行した『尼崎志』。昭和一〇年代後半の戦時期に編さん・執筆するも、戦争の影響もあり未刊に終わった「尼崎市政史」。市制五〇周年を記念して昭和四一年に刊行を開始し、昭和六三年までに全一三巻・別冊一という初の本格的な市史を世に送り出した『尼崎市史』。

市制八〇周年を迎えた平成八年（一九九六）、市制一〇〇周年に向けた記念振興事業として、本市は市民の皆さまとともに新たな市史を作る新「尼崎市史」事業を開始しました。その最初の成果物として平成一九年に刊行したのが、市制九〇周年記念の『図説尼崎の歴史』上下巻です。古代から現代に至るわかりやすい通史として、市民の皆さまに親しくご活用いただくばかりでなく、他市が取り組む自治体史の見本・参考にしたいというお問い合わせをいただくなど、各方面から高

いご評価を得ています。平成二三年には、園田学園女子大学短期大学部のご協力を得てウェブ版「図説尼崎の歴史」を作り、ウェブ上に公開することができました。

この度、市制一〇〇周年を記念してお届けする本書『たどる調べる尼崎の歴史』は、平成八年に始まる新「尼崎市史」を完結するものであるとともに、『尼崎市史』以来の市史編さんの集大成です。「学ぶ市史から調べる市史へ」をコンセプトに、尼崎のおもな歴史資料・文化財をグラビアページで紹介する第Ⅰ部、市政一〇〇年の歴史を図説年表にまとめる第Ⅱ部、歴史の調べ方や成果の活用方法をガイダンスする第Ⅲ部という、三部構成としています。第Ⅰ部・第Ⅱ部を通じて尼崎地域の歴史・文化や市政のあゆみをたどっていただき、さらに第Ⅲ部をご活用いただくことで、今後は読者市民の皆さま自身が、本市の歴史をひもとく主人公になってみてください。そして、その成果を現在と未来に活かし、次の世代に伝えていただければと思います。

市制一〇〇周年は、わがまちの歴史・文化をあらためて学ぶにふさわしい節目です。加えて、人口減少や少子・高齢化など本市がきびしい課題に直面するなか、人が学び、育ち、支え合い、次の世代につなげていくことができる自治のまちづくりが求められます。「たどる市史」であると同時に「調べる市史」である本書を、そういった協働の営みの糧としてご活用いただけることを願っています。

平成二八年一〇月八日



尼崎市長 稲村和美

凡例……………6

第I部 グラビア・バーチャル・ツアー 尼崎の歴史資料・文化財

田能遺跡……………	8	本興寺方丈……………	24
三角縁神獸鏡 水堂古墳……………	9	長遠寺本堂・多宝塔……………	25
摂津職河辺郡猪名所地図……………	10	長洲天満神社本殿……………	26
木造阿弥陀如来坐像 治田寺……………	12	富松神社本殿……………	27
木造日隆上人坐像 本興寺……………	13	織田信長禁制 本興寺文書……………	28
長洲御厨領家寄進状 大覚寺文書……………	14	荒木村重書状 長遠寺文書……………	28
太刀 銘恒次(数珠丸) 本興寺……………	14	戸田氏鉄禁制(折紙) 本興寺文書……………	29
太刀 銘守家……………	15	尼崎藩青山氏領地調べ 加藤省吾氏文書……………	29
本興寺笠塔婆 開明町／石造宝篋印塔 水堂／……………	15	摂州尼崎城絵図 加藤省吾氏文書……………	30
石造十二重塔 西武庫須佐男神社／如来院石造笠塔婆 寺町／……………	16	尼崎城下絵図 寛延頃 西本町・貴布禰神社……………	31
板碑 阿弥陀坐像板碑・地藏立像板碑 今北 東光寺……………	16	築地町絵図 築地町文書……………	32
大覚寺絵図 大覚寺文書……………	18	東新田村一筆限り絵図 柳川啓一氏文書……………	33
絹本着色涅槃図 長遠寺……………	19	浅葱糸威二枚胴具足 櫻井神社……………	34
紙本着色浄光寺縁起図……………	20	信使来聘自兵庫至大坂引船図 櫻井神社……………	35
本興寺開山堂……………	22	近松門左衛門墓 広濟寺……………	36
本興寺二光堂……………	23	長洲天満神社絵馬 景清・国俊鍛引き図……………	37

素盞鳴神社おかげ踊り図絵馬 守部……………	37	武庫大橋……………	42
尼崎紡績全景図・ユニチカ記念館……………	38	阪神電鉄尼崎倉庫……………	43
尼信記念館……………	39	尼崎市庁舎……………	44
引札 醤油醸造兼酒問屋 高岡利右衛門本店……………	39	白髪一雄 作品「大威徳尊」(一九七三年)……………	45
干蒸御菓子司處 丹波屋義信……………	40	産業遺産 撮影・解説 小林哲朗……………	45
大庄公民館(旧大庄村役場)……………	41	工場夜景 東浜ポンプ場ガスタービンポンプ……………	46

第II部 尼崎市クロニクル 一〇〇年のあゆみ

前史 原始・古代、中世、近世、近代(市制施行以前)……………	48～53
一九一六年(大正五)～二〇二五年(平成二七)……………	54～156

第III部 ガイダンス 調べる 尼崎の歴史

第III部総論……………	158	地域研究史料館(担当) 辻川敦・中村光夫……………	177
尼崎市の歴史編さん事業……………	158	第二節〈史料編〉……………	
執筆者 岩城卓二……………	158	1 地図・絵図……………	177
		執筆者 地域研究史料館(担当) 坂江愛・中村光夫……………	177
第一章 尼崎の地理・地形……………		2 航空写真……………	184
執筆者 岩城卓二……………	168	執筆者 地域研究史料館(担当) 西村豪……………	184
第一節〈入門編〉……………	168	3 地名を調べるための基本文献……………	190
『尼崎市史』にみる尼崎の地理・地形……………	168	執筆者 地域研究史料館(担当) 辻川敦……………	190

第二節〈実践編〉

1 地理研究の実践

- 中世都市尼崎の景観復元……………192
- 執筆者 藤本 誉博

コラム 武庫地区の地理・地形と住宅地化……………196

執筆者 地域研究史料館（担当 辻川敦）

地名研究の実践……………198

―「尼崎」という地名、小字調査―

執筆者 地域研究史料館（担当 辻川敦）

2 まち歩きの実践

マップを作り まちを歩く……………202

執筆者 味田 綾乃
正岡 茂明

第二章 尼崎の古代

第一節〈入門編〉

『尼崎市史』にみる尼崎の古代……………208

執筆者 高橋 明裕

コラム 阪神・淡路大震災と埋蔵文化財……………216

執筆者 益田 日吉

第二節〈史料編〉

1 古代史の基本文献……………218

執筆者 高橋 明裕

2 古代史料の特質……………220

―使い方と留意点―

執筆者 高橋 明裕

コラム 遺跡調査報告書……………225

―考古図版の作り方、使い方、読み取り方―

執筆者 益田 日吉

第三節〈実践編〉

1 考古資料

古猪名川流域の古墳分布から読み取れること……………230

執筆者 田中 晋作

2 古代の文献史料を読む

伝承史料から史実を引き出す……………234

―「住吉大社神代記」の神領の歴史性を探る―

執筆者 高橋 明裕

尼崎地域の王族の分布と王宮……………239

執筆者 古市 晃

景観から古代を読み解く……………245

―大阪湾岸の古代景観と海人の活動―

執筆者 坂江 渉

コラム 古代の郡・郷（里）の範囲を調べる……………250

執筆者 高橋 明裕

3 調査・研究から活用へ……………252

調査・研究をまちづくりに活かす……………

―猪名寺、寺町・大覚寺の事例―

執筆者 高橋 明裕

地域研究史料館（担当 辻川敦）

上巻執筆者一覧／奥付

下巻目次

第Ⅲ部ガイドランス 調べる 尼崎の歴史（続き）

特論1 土地形成史

図版でたどる尼崎地域の土地形成

第三章 尼崎の中世

第一節〈入門編〉

『尼崎市史』にみる尼崎の中世

第二節〈史料編〉

1 さまざまな中世史料―どんな史料があるのか―

2 中世史料はどこに残るのか

3 中世史料と出会うために

4 中世史料を読むために―その準備―

第三節〈実践編〉

1 中世の文書と記録

宝珠院文書を読む

―雑掌澄承はどこで殺害されたのか―

コラム 史料にみえる中世―尼崎の人々と生業―

コラム 中世尼崎への旅―紀行にみえる尼崎―

2 絵画史料

「大覚寺縁起絵巻」を読み解く

3 調査・研究から活用へ

富松城の研究

―戦国期城郭の研究とまちづくりへの活用―

第四章 尼崎の近世

第一節〈入門編〉

『尼崎市史』にみる尼崎の近世

第二節〈史料編〉

1 近世文書の伝来と活用

2 村の文書

3 町の文書

コラム 常吉村文書の整理―古文書整理ボランティア―

4 寺社の文書

5 武家の文書

コラム 尼崎藩家臣団データベース「分限」

6 村絵図

7 町絵図

コラム 中在家町の空間復元

8 城下絵図

9 近世史研究の基本文献

第三節〈実践編〉

1 近世文書を読む

古文書の解読

家出帳―研究を通じて通説を見直す―

城下町尼崎の調査・研究

―課題の設定、新たな史料の発掘―

西摂「ニヶ浦」の研究

コラム 貴田文善探索／尼崎藩の大庄屋調べ／

2 絵図・鳥瞰図を読む

尼崎城絵図の研究

尼崎城下風景図を読む

第五章 尼崎の近代

第一節〈入門編〉

『尼崎市史』にみる尼崎の近代

第二節〈史料編〉

1 歴史的公文書

2 民間所在史料（近代の文書類）

3 写真・絵はがき

4 近代の刊行物―『尼崎市史』以前の市村史誌・郡誌―

5 日記・手紙・回想

第三節〈実践編〉

1 近代史料と研究

新聞からみる尼崎の政治―大正期を中心に―

多国籍企業リーバ・ブラザーズの極東戦略と尼崎

コラム 士族会の史料

2 体験・回想・聞き取り

都市化を調べる

ろうあ産業戦士―手話「尼崎」を読み解く―

3 調査・研究から活用へ

近代建築の調査と活用

第六章 尼崎の現代

第一節〈入門編〉

『尼崎市史』にみる尼崎の現代

第二節〈史料編〉

1 現代の歴史的公文書

2 民間所在史料（現代の文書類）

3 現代の写真史料

4 現代の刊行物

5 聞き取り調査の方法

第三節〈実践編〉

1 現代史料と研究

現代尼崎の工業史を解明する

戦後初期尼崎における公共建築物建設の背景をさぐる

2 体験・回想・聞き取り

同郷者集団の調査

3 調査・研究から活用へ

アクション・ペインター白髪一雄と尼崎

コラム 白髪一雄と芦屋

特論2 文化財・民俗

1 尼崎の文化財・民俗

コラム 教育委員会の文化財調査

特論3 尼崎の歴史・文化財施設

1 地域研究史料館を利用する

2 文化財収蔵庫・田能資料館

凡 例

部・章・節の構成

- 1 本書は三部構成とする。
- 2 第I部「グラビア・バーチャル・ツアー」「尼崎の歴史資料・文化財」は、国・兵庫県・尼崎市指定文化財など、尼崎地域の各時代・分野を代表する歴史資料・文化財の画像に解説を付して掲載した。
- 3 第II部「尼崎市クロニクル」「二〇〇年のあゆみ」は、冒頭に市制施行以前を簡略にまとめた年表を付したうえで、市制施行の大正五年（一九一六）から平成二十七年（二〇一五）までの年表を原則として一年一頁にまとめ、他の年より掲載事項が多い昭和二〇年（一九四五）、平成七年（一九九五）、平成一七年（二〇〇五）については一年二頁とした。
- 4 第III部「ガイダンス」「調べる 尼崎の歴史」は、総論、地理・地形及び古代・中世・近世・近代・現代という時代・分野別の六章、土地形成史、文化財・民俗及び歴史・文化財施設を扱う特論により構成する。各章は、各時代・分野の研究史を整理するとともに尼崎市の歴史編さん事業を総括する第一節（入門編）、史料の種類や使い方を解説する第二節（史料編）、具体的な調査事例を通して調査・研究の方法・手順を示す第三節（実践編）により構成する。

漢字・かな・ふりがなの表記

- 1 原則として常用漢字（新字体）・現代かなづかいを用いたが、歴史的用語・人名等固有名詞の一部について、これにしたがわなかった場合がある。
- 2 難読と判断した用語について、原則として掲載項目における当該用語の初出にふりがなを付した。

年表記

- 1 年表記は一部の項目を除いて日本年号を基本とし、原則として掲載項目における当該日本年号の初出に西暦年を（ ）で括弧表示した。
- 2 明治五年（一八七二）以前の月日の表記は太陰太陽暦、明治六年（一八七三）以降の月日の表記は太陽暦を用いた。太陰太陽暦の月日にかかる日本年号に西暦年を付す場合は、太陰太陽暦と太陽暦のずれを考慮し、当該日が属する西暦年を正確に表記することを原則とした。

- 3 第II部の（日本と世界のできごと）に掲載した日本国外の事項は現地の月日を記載した。ただし、一九四一年（昭和一六）の「アジア太平洋戦争開戦」については日本国内の月日を記載した。

史料所蔵者・作成者等の記載

文書史料等の所蔵者、写真史料の撮影・提供者等は原則としてそのつど記載した。ただし所蔵機関が市立地域研究史料館である場合及び、写真史料の撮影者が尼崎市史編修室・市立地域研究史料館・市広報担当課である場合、一部を除いてその旨の記載を省略した。

引用・参照・参考文献の表記と記載省略

- 1 引用・参照・参考文献の表題は、原則として原史料の場合「」、刊行物の場合『』、掲載論文の場合「」で括弧表示した。
- 2 項目ないし小見出しの末尾等に、必要に応じて参考文献を掲げた。ただし煩雑を避けるため、『尼崎市史』『尼崎地域史事典』『図説尼崎の歴史』を参考文献とすることは省略した。
- 3 引用・参照文献等に『尼崎市史』『尼崎地域史事典』『図説尼崎の歴史』及び『尼崎市史紀要・市立地域研究史料館紀要』『地域史研究』をあげる場合、刊行主体等の書誌情報記載を適宜省略した。

引用・参照・参考文献記載において刊行主体等の書誌情報記載を省略した文献

- 『尼崎市史』 尼崎市刊行
- 本 編 第一巻～第三巻 一九六六～一九七〇
- 別 冊 『尼崎の戦後史』 一九六九
- 史料編 第四巻～第九巻 一九七三～一九八三
- 別 編 第一〇巻～第二三巻 一九七四～一九八八
- 『尼崎地域史事典』 尼崎市刊行 一九九六
- 『図説尼崎の歴史』 上下巻 尼崎市刊行 二〇〇七
- 『地域史研究』 一九七一・二〇〇七
- 第五巻第三号（通巻第一五号）までは尼崎市史研究紀要
- 第六巻第一号（通巻第一六号）以降は尼崎市立地域研究史料館紀要
- 本書刊行時（二〇一六・一〇）現在、通巻第一一五号まで刊行